


平成 年 月 日

ももたろう基金～「平成30年7月豪雨災害支援基金」～

第6次(災害支援・復興)助成金申請書

【団体情報に関すること】

| | | | |
|-------------|---|-------|--|
| ふりがな | あらいぐまおかやま | | |
| 団体名称 | あらいぐま岡山 | | |
| 代表者職名 | 代表 | ふりがな | なかたにこうたろう |
| | | 代表者氏名 | 中谷 幸太郎  |
| ふりがな | くらしきしまびちょうかわべ くらしきさいがいぼらんていあせんたーない | | |
| 団体住所 | 倉敷市真備町川辺 2271 番地 倉敷市災害ボランティアセンター内 | | |
| 電話番号 | | FAX | |
| 設立年もしくは活動年数 | 2018年10月 | | |
| スタッフ数 | 有給スタッフ _____ 名・無報酬スタッフ _____ 8名・ボランティア等 _____ 30 名 | | |
| 団体HP(あれば) | | | |
| FBページ(あれば) | https://www.facebook.com/mabisenjo | | |
| CANPAN登録 | なし ・ あり (星 つ) 【団体ID: _____】 | | |

※申請に関する事務担当連絡先(団体と異なる場合・電話番号については携帯電話など出来る限り直接本人につながるもの)

| | | | |
|-----------------|----------|------------|--|
| 担当者役職名(必須) | 事務局 | ふりがな | |
| | | 担当者氏名 | |
| 郵送物送付先住所 | 〒1 _____ | | |
| 担当者電話番号(極力携帯番号) | | 担当者 e-Mail | |

※本用紙に記載の個人情報は、本事業の実施にのみ使用します。

(事務局記入欄)

| | | | |
|---------|--|-----------|------------------|
| 事務局記入欄 | | 事務局記入欄 | 有 ・ なし (予定 月 日頃) |
| 受付日・受付者 | | CAMPAN 登録 | |

申請事業の内容

| | |
|---|---|
| 事業種類・内容 該当する活動に○をつけてください。 | 1. 災害支援・復興活動(真備エリア) 2. 災害支援・復興活動(県内各地) |
| 事業名 (もしくは事業概要) | 写真洗浄事業 |
| 活動(予定)期間 | 平成 30 年 10 月 29 日 ~ 平成 31 年 7 月 7 日 |
| 活動(予定)場所 | 真備町内 および 県下 |
| 受益者数 | 直接受益者 (150 名) 間接受益者 (名) ※いる場合 |
| 事業の必要性(背景)と目指すゴール(目指す状況) | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・現状や支援対象者の状況(支援対象者との現在の関係性についても必要に応じて記入) ・事業を実施することで被災地や被災者がどのような状況になることを目指すのか | |
| <p>西日本豪雨により被災した写真の洗浄・保護活動。倉敷市真備町を初めとした岡山県内では今でも写真アルバムを濡れたまま保管している方が大勢いらっしゃいます。写真を濡れたまま保管すると、泥水の中のバクテリアで画像が分解され、いずれ像が消えてゆきます。救出不能になる前に対処する必要があります。被災者の方の大切な思い出写真を保護し、洗浄してお返しする活動を第一に目指します。</p> <p>発災から数ヶ月が経ち、泥出し・家財の片付けなどから、次の生活段階に移られています。その中でこれまで保管していた写真アルバムの処置を考え始めた方々が多くいます。多くを失ったが、掛けがいのない写真だけは保護して置いた。しかし濡れている、写真像が溶け始めている、どうしたらよいのか。そのような切実な声を聞きました。この活動では、その為の手助けをし、被災された方が前を向いて歩み始められるよう努めてまいります。</p> | |
| 事業の実施内容 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・どのようなことをいつ(回数等)やるのか | |
| <p>現在は倉敷市災害ボランティアセンター内で「真備町写真洗浄@あらいぐま岡山」を組織し、センター内での写真洗浄活動を行っています。当初、洗浄講習会の形で始まった活動は、持ち寄り写真が多数あり、週一レギュラーで洗浄会を開催するに至りました。今後は洗浄会の開催を増やすとともに、活動拠点を定めより安定して作業が行えるよう拡張して参ります。またボランティアセンター内だけに留まらず、各地域拠点、地域イベントなどでも洗浄講習会を開き、写真処置法普及に努めます。</p> <p>作業は基本的にボランティアが行い、写真洗浄の依頼は無料です。被災者負担を増やすわけにはいきませんので、今後の洗浄依頼もずっと無料の方針は変えません。</p> <p>また作業だけに留まらない「人が集まる場所」という観点から様々な活動との協働も企画しています。地域拠点やイベント内で洗浄講習会など。家族連れが気軽に集まれる環境で、より身近に実施してゆきたいと考えています。</p> <p>作業をしながらコミュニケーションも生まれ、日常の語らいもできる環境。また被災者・周辺住民・ボランティア、様々な立場で一つの課題に取り組む連帯。期することは写真救出だけに留まりません。地域拠点の一つになれるよう努めます。</p> <p>手を動かすことによって 癒しになったという被災地域の参加者の声もあります。</p> | |

事業の実施体制

- ・事業実施にあたり、自団体の取り組みメンバーや連携先の団体など

中谷幸太郎を代表に、福井圭一 顧問 森田靖 事務局 小野直子 道広仁美 出口浩司 穂積久司 林美絵 大武智恵 の9名が発起人として 名乗りをあげており 彼ら有志による運営体制が10月中に確立。現在は倉敷市災害ボランティアセンター（倉敷市社会福祉協議会）と協働で真備町写真洗浄会を運営。岡山県内高等学校、岡山県内ボーイスカウト、写真家、写真館、全国写真洗浄団体などとも連携。基本岡山県内での活動に軸足を置きつつ、県外からの応援も要請できる体制。災害支援ネットワークおかやまを通じ、SmartSupply実施。必要備品の募集も開始。川辺地区支援団体 あるくとの協働を企画。各地で出張洗浄会が行える体制作りも整えつつある。

事業実施後の展望

- ・助成期間後も活動を継続す場合はその内容や展望
- ・助成期間をもって事業終了の場合は、その後の支援対象者の状況

現在集まった写真の洗浄を終結させることが第一目標ですが、潜在的に埋もれたニーズは沢山あります。本当はお願いしたいのだけれど、遠慮から言い出せずにいる方。お金がかかると思って躊躇している方。この活動自体を知らない方。今後は積極的に広報を行い、埋もれたニーズの掘り起こしに努める。またそれにより発生した作業に任る。また、現在は真備町のみ活動範囲になっているが、被災した地域は県内各所にあり、様々な場所で同様の活動の展開する必要がありますと考えています。その模索も続けます。

その他

- ・その他事業実施にあたり、特に必要なことやPR

「写真洗浄」の活動は、東日本大震災の際に全国的に始まった活動でありました。遠方のボランティアが、被災地に対し、遠隔地に居ながら支援をするという一つの形。それは最大限の効果を生み、被災地の思い出の品々の多くは救われました。現在「あらいぐま岡山」が目指していることは、岡山県内を軸に、地元発で活動はできないかということです。被災地地元開催の意義は大きいと思います。いつかまた災害が起こった際には、迷わず立ち上がることができるでしょう。その為のノウハウを残す。防災活動でもあります。全国から岡山の対応事例が参考にされるようになったら良いと思います。また地域活動の発動として、今後の振興にも寄与するものと考えています。地域グループとは積極的に連携していきたいです。

※この用紙に収まらない場合は、別紙企画書など添付ください。ただし、概要についてはこのページ1枚にまとめてください。

実施予算 ※価格の根拠が分かるものなど必要に応じて添付ください。